

みなさまからのご寄付をもとにASKが支援している
アーティストたちの活動の一部をご紹介します。

ASKが支援した活動のご紹介

未来アート寄金助成 ▶ コンテンポラリーダンス

日本初の「ダンスドラマトゥルク・ミーティング」を開催

中島那奈子さんは日本のダンス分野におけるドラマトゥルクの第一人者。ドラマトゥルクとはあまり聞きなれない言葉ですが、舞台芸術において演出家や脚本家とは違う視点から作品について助言をしたり、リサーチや分析を行ったりする職業で、近年大きく注目されています。その役割をめぐって日本で初となる国際的なシンポジウムとワークショップが2024年3月20日～23日の

4日間にわたり京都芸術大学とロームシアター京都で開催されました。「ドラマトゥルクがいると何が生まれるか？」をテーマに、国内外の専門家が集い活発な議論が行われたほか、さまざまなワークショップも併せて行われました。当初目標の参加者数は100名でしたが、若い世代を中心にそれを大幅に上回る144名が参加。ドラマトゥルクに対する関心の高さが伺えました。



「2024年ドラマトゥルク・ミーティング」ワークショップ参加者たち
Photo: 大曾根麗奈



「2024年ドラマトゥルク・ミーティング」会場風景
Photo: 京都芸術大学舞台芸術研究センター提供

トヨタモビリティ新大阪ASK支援寄金助成 ▶ クラシック音楽

打楽器実演家集団 studio kNotの公演「刻む」が開催されました

同じ音楽大学で学んだ若手打楽器奏者によって結成された打楽器アンサンブルstudio kNot。その名称にはクラシック音楽自体への疑問「not」と結ぶ「knot」の2つの意味がこめられています。その演奏会のタイトルは「雑る」(まざる)、「惑う」(まどう)、「嵌る」(はまる)など明確なテーマを感じさせる個性的なもの。

そして今回の公演「刻む」(伊丹市アイホール2024年5月

10日～12日)では、打楽器音楽の真髄に迫りました。演奏された6曲はいずれも打楽器音楽の歴史に名を残す作品。1曲目では一人であった奏者が、曲を追うごとに一人ずつ増え、最後の6曲目では6名の奏者がさまざまな打楽器を超絶的に弾きこなしていきます。会場が演劇専用ホールであっただけに打楽器演奏における身体性がより際立った公演となりました。



打楽器実演家集団 studio kNot 公演「刻む」演奏風景
場所: 伊丹市アイホール



打楽器実演家集団 studio kNotのメンバー

クラウドファンディング助成 ▶ 現代美術

守屋友樹さんが「トーチカプロジェクト」を行いました

旧日本軍が第2次世界大戦末期に建てたトーチカ。アメリカ軍の上陸に備えるための防衛陣地として建造され、現在も北海道東沿岸部の原野や海岸に点在しています。写真家の守屋友樹さんは、これらトーチカの中に入り、その窓から見える景色をピンホールカメラの原理によって写真にすることを思い立ちました。こうして2023年の秋から冬にかけて行われたのが「トーチカプロジェクト」で



撮影に使われたトーチカ Photo: 守屋友樹

す。トーチカの開口部をピンホールとなるよう狭め、その内部に印画紙を広げてそこに見える風景を写真として写し取りました。そこで守屋さんは「待つ時間」を感じたと言います。そこに現れた茫漠とした原野の光景は、私たちに何を語りかけるのでしょうか？作品は2024年1月と4月に北海道と京都で開催された守屋さんの個展で発表されました。



トーチカから撮影された北海道の原野 Photo: 守屋友樹

寺田千代乃上方落語若手噺家支援寄金助成 ▶ 伝統芸能

「第10回上方落語若手噺家グランプリ2024」が開催されました

アート引越センター現名誉会長の寺田千代乃氏が若手噺家を応援しようと立ち上げたファンドをもとに、2015年からスタートした「上方落語若手噺家グランプリ」。10年続けることを目指して毎年開催され、今年ついにその10回目を迎えました。6月19日の決勝には予選を勝ち抜いた若手噺家9名が出演。磨き上げた渾身のネタを披露し、会場を爆笑の渦に巻き込みました。グランプリに輝いたのは、インバウンドの視点から奇妙な世界観を表現した笑福亭笑利さん。準グランプリは独自のアレンジによる古典落語を披露した笑福亭呂好さんが受賞しました。笑利さんはインタビューで「ネタは場の空気を読んで出番直前に完成しました」と話し会場を驚かせました。授賞式には寺田千代乃氏も登場。「みなさん、来年も11回目を開催します！」と力強く

宣言し、会場から大きな拍手が沸き起こりました。



左から上方落語協会・笑福亭仁智会長、準グランプリの笑福亭呂好さん、グランプリの笑福亭笑利さん、寺田千代乃氏 場所：天満天神繁昌亭

トヨタモビリティ新大阪ASK支援寄金助成 ▶ クラシック音楽

室内楽のマスタークラス「Reise String Laboratory」が行われました

コロナが猛威を振るっていた2020年12月、ひとりの若き音楽家・長尾賢さんによって立ち上げられた今福音楽堂（大阪市城東区）。その理念は地域に根差した音楽活動と世界を結ぶこと。2023年から、世界トップクラスの演奏家たちが集い、若手弦楽器奏者たちを対象にした室内楽のマスタークラス「Reise String Laboratory」を開催しています。今年3月に行われた2回目には講師陣として、昨年引き続き、小栗まち絵さん、梁美沙さん、牧野葵美さん、門脇大樹さんの4名が参加。受講生はいずれも20代の弦楽器奏者6名で、1週間の間、合宿をしながらレッスンを受け、技術だけでなく音楽にとって大切なものとは何かを学びました。最終日3月10日には講師と受講生の混合編成による成果発表コンサートが今福音楽堂で行われ、その

圧倒的な演奏に活動の成果が如実に現れていました。



Reise String Laboratoryに参加した講師（前列）と受講生（後列）のみなさん 場所：今福音楽堂